

《公開用感染制御相談事例集(Q&A)》

相談事例No. 30

区分 洗浄

【質問】

器材洗浄が中央化になっておらず、ウォッシャーディスインフェクタント（WD）の購入予定もないため、各病棟での用手洗浄を効率よく行うために予備洗浄スプレーや浸漬洗浄の導入を検討しています。どのように取り扱えばシンプルに安全にできるでしょうか？

【回答】

洗浄前処理としての予備洗浄スプレーや浸漬洗浄の導入は、適切に使用すれば、洗浄効果の向上が期待できます。予備洗浄や浸漬で汚染が落ちやすくなると考えてよいと思います。導入にあたっては、洗浄の担当者を限定して教育を行い質を担保することも大切です。

予備スプレーを導入した場合、どの位の量をスプレーしたらよいのかといった疑問が出る人が多いようです。浸漬の場合、一定時間浸漬した後に洗浄液を廃棄して運搬することになると思いますが、洗浄液を処理する時に周囲の環境を汚染してしまうことやケースの管理方法などが問題にもなります。また、器材の使用を終えてから洗浄までに時間があくことによって鋼製小物の錆発生の報告事例も増えることが予想されます。施設の状況（業務の都合や場所の確保、使用頻度やコスト）などによってどちらが有用か違ってきますが、どちらを導入するにしても、詳細を手順として決めておくことが重要になります。